

ソーズーシー プロフィール



■瀧川鯉八(たきがわ・こいはち)

1981年、鹿児島県鹿屋市出身。2006年、瀧川鯉昇に入門。2010年、二ツ目昇進。2020年、コロナ禍の中、真打昇進。予定していた披露パーティーが見送りとなる。第1回渋谷らくご大賞(2015年)、第3回、4回渋谷らくご大賞(2017、2018年)受賞。花形演芸大賞金賞受賞(2021、2022年)ほか。独自の新作落語で「鯉八ワールド」を生み出し、熱狂的ファンを持つ。映画「土を喰らう十二カ月」にも出演。無類の映画好きでも知られ、「希望のかなた」「枯れ葉」などのアキ・カウリスマキ監督に会いにフィンランドまで行ったことも。落語芸術協会所属。当会には、2018年「旅成金」に続き、2度目のご出演。



■春風亭昇々(しゅんぷうてい・しょうしょう)

1984年、千葉県松戸市出身。2007年、春風亭昇太に入門。2011年、二ツ目昇進。2021年、真打昇進。落語芸術協会所属。2016年、第2回渋谷らくご大賞、2020年、渋谷らくご創作大賞受賞。2017年に結成した「ソーズーシー」の発起人にして、リーダー。新作落語に熱き思いを持つソーズーシーのムードメーカーだが、実は2022年に脳梗塞を発症し、手術を受ける。幸いにも大きな後遺症なく現在も、熱い高座を届けている。昨年は後輩の春風亭吉好さんの独演会のゲストとして当会にもご出演。文化放送配信の「はまきんっ」に金曜隔週でレギュラー出演。千葉テレビ「モーニングこんぱす」では水曜メインパーソナリティーを務める。Youtubeチャンネル「アバンギャルド昇々」。趣味はマラソン、トレイルラン。



■玉川太福(たまがわ・だいふく)

1979年、新潟市出身。2007年、二代目玉川福太郎に入門、2013年、名披露目。古典と新作の二刀流。日本浪曲協会のほか落語芸術協会にも所属し、落語の寄席にも出演。「天保水滸伝」や「清水次郎長伝」など古典を継承する一方、新作では代名詞とも言える「時べたの二人」シリーズをはじめ、時事ネタや身辺雑記など幅広いテーマを浪曲化。2017年からは山田洋次監督、松竹の許諾を得て「男はつらいよ」シリーズの全浪曲化にも挑戦。昨年は、三遊亭白鳥原作の「任侠流れの豚次伝」全10話の浪曲版を当会で通し公演。テレ朝動画「WAGEI」レギュラーMCとしても活躍中。第1回渋谷らくご創作大賞(2015年)、文化庁芸術祭大衆芸能部門新人賞(2017年)、浅草芸能大賞新人賞(2020年)、花形演芸大賞銀賞(2022年)、彩の国落語大賞特別賞(2023年)など受賞。



■立川吉笑(たてかわ・きっしょう)

1984年、京都市出身。2010年、立川談笑に入門。わずか1年5カ月の異例のスピードで二ツ目昇進。2023年、立川志の輔、春風亭昇太、立川談春、三遊亭白鳥、春風亭一之輔をゲストに迎えた伝説の真打トライアルを経て、真打昇進内定を勝ち取る。古典落語の世界観の中で、現代的なコントやギャグ漫画に近い笑いの感覚を表現する『擬古典<ギコテン>』という手法を得意とする。『中央公論』での「炎上するまくら」、『note』での「立川吉笑ウェブ書斎『羅房』」など、執筆業にも積極的に取り組んでいる。著作に『現在落語論』など。2021年、渋谷らくご大賞・渋谷らくご創作大賞W受賞。2022年、若手噺家の登竜門、NHK新人落語大賞を満点受賞。現在、来年の真打昇進に向け、着々と準備中。



■玉川みね子(たまがわ・みねこ)

山形県出身。二代目玉川福太郎と結婚したことを機に、三味線教室へ。1976年に入門。1978年、浅草・木馬亭で初舞台。現在は玉川太福らの相三味線を務める。

<生らくご会とは>

2008年、席亭の上村が「生で落語を聴く楽しさを知ってもらいたい」と個人で始めてしまった会。落語のほか、講談や浪曲、活弁など幅広く話芸の会を90回以上開催。春風亭一之輔さん、神田松之丞(現伯山)さんらも二ツ目時代から広島に招いてきた。2009年には、広島で初めて柳家喬太郎独演会を開催。

<年内の予定>

- 10/20(日) 三遊亭ごはんつづ落語ライブ
- 11/23(祝) 立川吉笑らくごLIVE
- 12/1(日) 立川談笑&坂本頼光二人会

